

常設展示 館蔵品を展示します

姫路のやきもの

とうざんやき

えいせいしや

東山焼と永世舎



永世舎 色絵龍鳳文鶴首花入 一対

同時開催 開館 25 周年特別展示

播磨に息づく匠の技

令和元年(2019年)

6月8日(土)~7月15日(月祝)

休館日/月曜日(祝日をのぞく) 開館時間/午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

会場/姫路市書写の里・美術工芸館 展示室B・C・A上



東山焼 染付牡丹唐草文鉄子



東山焼 青磁獅子形水注

入館料/一般 300 円、大学・高校生 200 円、
中学・小学生 50 円

※20 名以上の団体は 2 割引

●身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた方、及び介護者 1 名、どんぐりカード、ひょうごっ子ココロンカード提示の小中学生、姫路市内在住の 65 歳以上の方は無料。

主催/姫路市書写の里・美術工芸館

企画/姫路市文化国際交流財団



- JR・山陽電鉄姫路駅より神姫バス「書写山ロープウェイ」行きで約 25 分 終点下車徒歩 3 分。
- 姫路ハイパス・姫路西ランプより約 15 分。
- 山陽自動車道・姫路西インターより約 10 分。
- 無料駐車場(45 台)

姫路市書写の里・美術工芸館

〒671-2201 兵庫県姫路市書写 1223 番地 TEL.079-267-0301 Fax.079-267-0304 <http://www.city.himeji.lg.jp/kougei/>

売店販売書籍のご案内

当館の所蔵品 62 点を含む、現存する東山焼・永世舎などの代表的作品 98 点全点をカラー写真と詳細な解説で紹介。さらに文献記載や作品銘集の年代別対応表などの巻末資料も充実した 1 冊となっています。



とうざんやき えいせいしゃ
書籍名 **「姫路のやきもの 東山焼と永世舎」**
著者 **山本 和人** (元 姫路市書写の里・美術工芸館 学芸員) 発行 **海風社**
価格 **2,000円＋税** 姫路市書写の里・美術工芸館 1階売店にて販売中

「はじめに」より

姫路では革製品や染織品をはじめ、さまざまな工芸品が古くから作られてきた。陶芸品である東山焼は、歴史的には他の工芸品よりも時代が下り、江戸時代後期にあたる。そもそもわが国における磁器製造は江戸初期の伊万里に始まり、江戸後期になると全国各地の藩で窯を築き材料を調達し、経験のある陶工を呼び寄せて磁器製造を行うようになった。姫路の東山焼もその一つといえる。窯は姫路市の南東部、瀬戸内海の港にも近い東山の地に当初あったため、この名がある。

その後、姫路城西隣の男山山麓に窯を移している。いずれの窯跡も発掘調査はされておらず、破片の採取が行われただけである。また、東山焼に関して記した藩の文書も見つかっておらず不明な部分が多い。しかし、作品自体は染付と青磁を中心に数多く現存しており、藩窯らしい気品あふれる名品もあるため、高く評価されており根強い人気のあるやきものといえる。

ただし、東山焼に関する本は残念ながら、今のところ『姫路藩窯東山焼』（満岡忠成著）しかなく、その本も昭和 50 年発行の古書であり、既に 40 年以上が経過して入手も困難な状況にある。そのため、東山焼は地元以外では一般にあまり知られていない。また、作品に興味をもって東山焼について調べようと思っても、その術がないのが実情である。

今回、本書を発売するにあたっては、歴史等の説明はできるだけ簡略なものとし、いかにも東山焼らしい代表的な作品を中心に写真で紹介することで、気軽に手に取っていただけるようなものとした。ただ、今後より深く研究を志す方々のために、巻末資料を添えた。興味のある方はそちらにも目を通していただければ幸いである。

一般書籍として、各書店でも購入、もしくはご注文いただけます。

頁数／114 ページ 並製 ISBN／978-4-87616-058-7 Cコード／C3072 専門 » 単行本 » 写真・工芸